展示の見どころと作品紹介

別紙 1-1

「伊達男のこだわり」展では、「きせる」「たばこ盆」「たばこ入れ」などの喫煙具を、「金工」「漆芸」などの装飾に注目しつつ、制作した職人、使用した持ち主などのエピソードなどを絡めて展示します。ここでは、そのほんの一部を紹介します。

きせる

装身具としての機能も果たしたきせるには、見事な彫りが施されたものが多く見られ、特に明治時代に制作されたきせるには、1875 年の廃刀令によって転向を迫られた刀装金工の精緻な技が見られるものも多くあります。展示では職人の技が光るきせるを紹介します。

名工といわれた加納夏雄が手がけたきせるを刀装具と合わせて紹介します！

Photo. 02

Photo. 03
（部分拡大）

若松に福寿草きせる
1893 年（明治 26）

Photo. 04
（表面）

Photo. 05
（表面）

馬図小柄
1860 年（万延元）（個人蔵）

Point ▶ 廃刀令以前、夏雄が手がけたこの小柄（こづか）の表面には馬が、裏面には、左のきせるにも彫られた若松と福寿草がみられます。展示では両作品を鑑賞することができます。

Photo. 06
（表面）

Photo. 07
（裏面）

枝菊図鏥
銘：なつを刻
1881 年（明治 14）（個人蔵）
※鏥（はばき）とは、鞘を守り、刀身が抜け落ちないようにする刀装具。

Point ▶ 刀装具のなかでも、名工・加納夏雄が手がけた鏥で現在確認できるのは、今回展示するこの 1 点を含めて世界で 3 点のみとされています。

本展のタイトルにもなっている「伊達男」の代名詞・伊達政宗が使用していたきせる（副葬品）ときせる箱を展示します！

Photo. 08

伊達政宗墓所出土品　きせる
仙台市指定文化財　（仙台市博物館蔵）

Photo. 09

梨子地きせる箱（仙台市博物館蔵）

たばこ盆

調度品としての役割も担っていたたばこ盆には、美しい蒔絵が施されたものも多くあります。展示では、漆芸の大家として知られる柴田是真が手がけたたばこ盆、素材の組み合わせに趣向を凝らしたたばこ盆などを紹介します。

Photo. 10

武蔵野蒔絵手付きたばこ盆
柴田是真

Photo. 11

縞柿舟形提げたばこ盆

Point ▸ 舟形のたばこ盆の表面は木目を波に見立てるように仕上げられています。銀細工の波しぶきがあがり、提手は鯨のヒゲ製で、様々な素材の取り合わせの妙を味わえます。本展ではほかにも、蒔絵で彩られたたばこ盆など多数展示します。

たばこ入れ

きせる筒、袋、根付などで構成されるたばこ入れは、彫刻や金工など、それぞれに職人の技をみることができます。また、素材や組み合わせの妙も楽しむことができます。本展では、様々なたばこ入れを展示します。

Photo. 12

金唐革腰差したばこ入れ

Photo. 13

菖蒲革差し根付たばこ入れ（個人蔵）
菖蒲の文様を染め抜いた菖蒲革の袋には、河童の根付が合わせられています。河童のからだは鹿角、髪の毛は鹿の毛という凝ったつくりの根付は、尾崎谷斎（尾崎紅葉の父）によるものです。

Photo. 14

更紗腰差したばこ入れ（八代目桂文楽コレクション）

Point ▸ 100 点以上のたばこ入れを所蔵していた八代目桂文楽。落語家になる前は、袋物屋に奉公していたこともあり、コレクションは名品ぞろいでした。本展では、たばこ入れと合わせ、コレクションを収納するために文楽が誂えた簞笥も展示します。